

# 総選挙の鍵

篠部 正夫 (西淀川区)



患者が「先生、麻生総理もいざといけど、この歯もまた持ってます」と言った。数カ月前に私が「どいっちが先か麻生かこ

の歯か」と言ったギャグが大受けで、私が忘れていたのに覚えてくれたのだ。  
この原稿を書いている時点でまだ各党のマニフェストは出揃っていないが、有権者が政党と候補者を吟味できる時間は十分ある。各々の論点だけでなく、今日の日本の姿を形成してきたこれまでの実績が評価対象となる。前回の郵政選挙では「改革」という言葉面に幻惑されて、アメリカの

サブプライムローンの破綻の影響をもろに受ける国家体質になってしまった日本の姿は、有権者側にとっても反省材料として今回の選挙に生かされねばならない。また政治家の癒着など早急な改善を必要とする分野が進展せず、財政再建の名のもとに国民福祉や雇用安定の劣化が進む現状に国民の不満は膨らみ、選挙の論点として争われるべき課題は多い。  
だがオール与党の政界地図や違いの分かりにくい二大政党と少数野党の非力に国民は無気力に落ち入り、近年の選挙では棄権が多い。  
旧社会党の没落は支持基盤だった労組が切りく

ずされ弱体化し、それへの対応の遅れが大きな理由の一つであるが、長期保守政権が旧社会党など野党の政策を少しずつ横取りしたこともよる。政権は取れなくとも政策の一部が与党に生かされれば一定の評価は得られる。  
多くの政党が強力な支持基盤を細らせている現在の選挙の鍵は浮動層が握っている。個々の候補者はどうも言ってられないだろうが、国民にとって勝ち負けだけが選挙ではない。少数野党の提言も与党が生き残るためにも無視できない現実を思えば、未来を切り開く希望は投票所から生まれるとも言える。

# 会員投稿



炎夏の夏は、水に親しんで大いに解放感にひたれる季節である。プールで何回もターンを繰り返して泳ぐ充実感は何とも言えない。疲れたら、浮輪に身をまかせ浮遊しながら目を閉じて瞑想し、

時折目をあげ上空の白雲の形や位置の変化を楽しむ。まさに無私の境地に居るかのごとき心地になれる。  
広々とした海原での海水浴では、子供の頃、足の地に着かない深い所へいったらいけない、海岸線と平行に泳げと水の怖さを教えられていたが、何百メートルも沖で遠泳している人がぼつんと点のようになり、大自然に溶け込んでいる雄姿が美

しく、羨ましく思えたものである。  
ところでこのような背景の下でつくられたで

いる仲間たちから愛されていらないと言っているが、それは一時的なことで、時間が過ぎれば一切を

老婦人に尋ねたことがある。彼女は若くして配偶者と死別、唯一人広い海に放り出された心境の

大いに憤慨し抗議するのが当然であるのに、イエスキリストはそれをせず、十字架にかけられたのは何故ですか。彼女は、していることの意味が分からないのだから許さないといキリストの教えについて答えてくれた。

このように、「許す」は深く超越的な愛へ導かれる一歩だと思ふ。  
終わりに、琵琶湖畔の草津に蓮の花を見に行ってきた一近江富士よし蓮の花さらによし

空しく闇に消えてゆくばかり。  
各種陳情に際した時だけカメラに愛想をする野党議員の顔が、業界紙に載る位では世論を沸かせるには至らない。料亭で自民幹部に大金握らせても、罰を受けたのは、我々が日歯会長だけとは、いまだに不可解。マスコミも知らぬはずはない事件だが、善良な会員の善意で、一隅に灯を点し続けても、何故か行政もマスコミも一顧だにしてくれない。  
どげんかせにや、歯科大入学生志望は減るばかり。

# 残暑お見舞い申し上げます

## 許す愛

久松 聰 (高槻市)

あろう次の俳句、「愛されずして沖遠く泳ぐなり 藤田湘子」には、孤独感とともに大いなる力強さが感じられる。海岸に

超越した深い愛を悟るように思われる。  
最近、私はイエスキリストのことを思うようになった。クリスチャンの

中、さすがの思いで教会を訪ねたそうである。私は彼女に質問した。  
自尊心を傷つけ人権を侵害する言葉や行為には

そこで私は実際に聖書のページを繰ってみると、あなたの方が許す罪は誰の罪でも許されるとのイエスの言葉がヨハネ伝

の西成区の某院の不正請求が、国保分だけで、8カ月間で3億1千万円と途方もない数字を報じ、さらに帝京大学裏口入学数千円と並べた。医療危機打開・府民集

自覚と反省を、申し訳がましく紙面の片隅に見た。自社襲撃事件の顛末についての一週刊誌に対する反論には、大きなスペースで連日の如くに報道していた傲慢さは、記



終戦の日である。無辜の民の幸せを奪った狂気の指導者と、それに加担した官憲、また、それを是とし喧伝に努めたマスコミの罪業の深さを忘れはならない。  
いつの世も、最大の被害者は、組織をもたない無知な市民なのだ。  
朝日夕刊紙のコラム欄の「麻生個人攻撃の度が過ぎる」との一読者からの抗議に、公器としての

## マスコミの罪業

鷺見 和恒 (中央区)

憶に新しい。  
今は大衆の関知しない内閣支持率というものを編み出して、上がったの下がったのと連日騒いでいるが、それを世相として国論の如くにし、衆愚政治の基を醸成してゆく

血の叫びは、市民に届かなかった。しかるに、その2日後の朝日夕刊は、何を根拠にか「診療報酬を不正受給」との大見出しで七段に亘って、開業医の標準月収は400、600万円であり、問題

会は今全く無視され、医者は金持ちとの偏見を植え付けてばかり。昨今の医師不足問題も、根本を解明するでもなく、医療担当者の責任と片付けている態度に、国民の命を預かる医療最前線の声は、

どげんかせにや、歯科大入学生志望は減るばかり。